

KSKQ 京橋 おかげさま 通心 21

正真会 『はたらく』きょうばし 2021年 12月 加光『くらす』生活訓練施設

就労移行支援事業所

“都島区防災DAY2021”
都島区防災サミット & 都島区防災フェスティバル
お互いに助け合うココロ

11月21日、秋晴れの日曜日に「都島区防災DAY2021」を開催いたしました。ご協力頂いた皆様、ご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。

午前中の「都島区防災サミット」では、地域の中の各世代や各セクターを代表する様々な顔ぶれが集い、都島区に暴風・高潮警報が発令された場合の水害発生と避難行動について話し合いました。小学生からお年寄りまでの各世代が、互いに丁寧にコトバを選びながら、慎重に想いを伝え合い、議論を深めます。昔は家の中や町の至る所で見慣れた光景だったのかもしれませんが、現代においては、とても新鮮で意義深いものだと思います。



午後からの「都島区防災フェスティバル」では、防災にまつわるテーマで10ブースが出店。災害を体感するブースや暮らしの中でできる予防や学びを得るブースなど、多種多様な団体が趣向を凝らした取り組みを発表しました。

近年増加する自然災害を予測することは難しく、多くの場合は備えなく災害に見舞われます。その時に問われるものは、避難や対処の方法だけではなく、人としての在り方だと思います。家族や身内だけではなく、その場に居合わせた他人同士を大切な隣人として思いやり、お互いに助け合うココロが真に問われるのです。この町で仲間が集まれば、必ずこのココロを育む事が出来ると確信しています。やってみて気付く課題も沢山ありましたが、目指すところのイメージもまた一歩進んだ一日でした。本当に有難うございました。



いつもお世話になり有難うございます。あつと言う間に過ぎる年の瀬は、子供の頃からどこことなくの気忙しいさとお正月を待つワクワク感が混ざり合う季節です。様々な選択に悩み、時に揺らぎながらも、年頭に掲げた「一連一体」という抱負を胸にこの一年を歩むことが出来ました。先ず初めに、お世話になった皆様に感謝を申し上げます。

一年を振り返ると、ホントに濃密な時間だったと思います。春先のイベント開催日に降り注いだ怒涛の大雨は、その意志を問うには十分すぎる程の出来事でしたし、その一日を共に過ごした仲間たちとの絆は掛け替えの



振り返れば一本道
たくさんの方々が連なって

管理者 寺村 肇

「正真会とつながる全ての人々の幸福に貢献する。」——本誌1月号で述べた一節ですが少しは実現できたでしょうか。振り返れば一本道とはよく言うコトバですが、今年は特に身に沁みます。この想いを強くして、迷わず前へ進もうと思います。

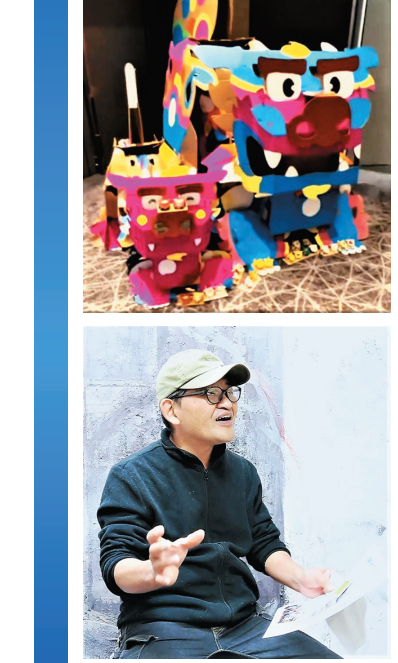
正真会の支援を求めて来て頂いた利用者の皆さんとの毎日は、お互い学び成長し合う日々の連続でした。新しいスタッフを迎え、支援としてはまだまだ至らぬ点もありますが、皆さんの夢の実現に共に取り組んだ一年だったと思います。企業見学会や企業実習など外部から正真会を支えて下さった皆様も、研修や業務サポートで内部から支えて下さった皆様にもお礼申し上げます。

ないモノになりました。その後の夏の子供向け職業体験企画や秋の手づくり市の成功にもつながりますが、沢山の人のチカラが連なって、支え合ってきたからこそ成果だと誇りに思います。

正真会の支援を求めて来て頂いた利用者の皆さんとの毎日は、お互い学び成長し合う日々の連続でした。新しいスタッフを迎え、支援としてはまだまだ至らぬ点もありますが、皆さんの夢の実現に共に取り組んだ一年だったと思います。企業見学会や企業実習など外部から正真会を支えて下さった皆様も、研修や業務サポートで内部から支えて下さった皆様にもお礼申し上げます。



イベントへのご出店や、ご協力を頂く方々をご紹介してまいります！



笑顔のルーツ 勇気を頂く自然体

今回、CRIP Sakaguchi and Works様(大阪市大正区)の「組立紙細工(くみたてかみざいく)ひこかみ」こと坂口雅彦さん取材させて頂きました。職場はまるで秘密基地。遊び心を持つ方ならワクワクが止まらないような楽しい場所です。主に商品パッケージのデザインを中心に、箱・ペーパークラフトキット・舞台美術等、幅広くデザインを手掛けておられます。

愛称「ひこかみ」の由来は「彦ちゃんの紙細工屋さん」から。最初はそちらのフルネームで活動しておられたようですが、「自然と」周りの方から「ひこかみの兄ちゃん」と呼ばれるようになり、そちらが正式名称になったのだとか。

そうした「自然と」という言葉は、坂口さんと大きな関わりのあるものかもしれません。8つの頃から方眼紙や箱を使った工作に没頭していたという坂口さんは、工業高校時代からデザイナーになりたいと考え、1年の職業訓練校の広告デザイン課修学を経た後、印刷会社を転々としながら修行をされました。印刷所で昔ながらの方法で箱や印刷のノウハウを学習したら、その技能が「自然と」仕事に結びつき、「気づいたら、夢だったデザイナーをやっていた」そうです。そんな笑顔で語る坂口さんも、事業がとん挫して借金を抱えられたり、大工をしながら日々を過ごしたりと大変な苦労をされておられます。それにも関わらず、そのような苦労を感じさせない自然体の笑顔で、当時は振り返っておられました。

正真会の地域イベントはレギュラーとして大活躍して頂いている坂口さん。そのエネルギーに、どれほど私たちが助けて頂いているのやら。今回のインタビューを通じて、坂口さんの前向きな活力のルーツである自然体という本質に触れさせて頂いたような気がしました。これからも、どうぞ宜しくお願い致します。

CRIP Sakaguchi and Works
ひこかみ 坂口 雅彦氏



愛称「ひこかみ」の由来は「彦ちゃんの紙細工屋さん」から。最初はそちらのフルネームで活動しておられたようですが、「自然と」周りの方から「ひこかみの兄ちゃん」と呼ばれるようになり、そちらが正式名称になったのだとか。

そうした「自然と」という言葉は、坂口さんと大きな関わりのあるものかもしれません。8つの頃から方眼紙や箱を使った工作に没頭していたという坂口さんは、工業高校時代からデザイナーになりたいと考え、1年の職業訓練校の広告デザイン課修学を経た後、印刷会社を転々としながら修行をされました。印刷所で昔ながらの方法で箱や印刷のノウハウを学習したら、その技能が「自然と」仕事に結びつき、「気づいたら、夢だったデザイナーをやっていた」そうです。そんな笑顔で語る坂口さんも、事業がとん挫して借金を抱えられたり、大工をしながら日々を過ごしたりと大変な苦労をされておられます。それにも関わらず、そのような苦労を感じさせない自然体の笑顔で、当時は振り返っておられました。

正真会の地域イベントはレギュラーとして大活躍して頂いている坂口さん。そのエネルギーに、どれほど私たちが助けて頂いているのやら。今回のインタビューを通じて、坂口さんの前向きな活力のルーツである自然体という本質に触れさせて頂いたような気がしました。これからも、どうぞ宜しくお願い致します。



正真会 法人理念

誰もが人として暮らし、人としての喜びを感じられる社会を創造します。人の歩みを共に喜び、共に学び続けます。

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 8 働きがいも経済成長も

正真会はSDGsの項目で次の持続可能な開発目標を掲げています

■編集人■(毎月発行)
〒534-0024 大阪市都島区東野田町5-5-16
京橋おかげさま通心 編集委員会
電話 06-6351-8668

■制作・協力■
NPO法人 チャレンジステージ
HP: www.challesta.com

■発行人■
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

◆一年を振り返るこの時期、ふと「後悔先に立たず」の諺が浮かびます。「終わってしまったことを後悔やんでも遅い」という意味ですが、転じて「後悔せぬよう、事前に準備と注意をすべし」という教訓の意図もあるそうです。私なりの言葉に代える「後悔しないように最善を尽くすべし」という事でしょうか。これは自身の経験上、非常に胸に刺さる言葉です。私は「全身全霊の最善を尽くさず道半ばで終えてしまう自分」を許しません。「向上心を常に持ち、失敗を恐れずチャレンジをし続ける事が、自身を成長させる」「人生何事もやらねば分らない」「これが私を成長させる」「人生を支えている信条となります。その全身全霊の行動によって良い結果が生まれ、自身の心とハイタッチ。仮に良い結果が出なくても、それは糧になるのです。このようにして、清々しい成長の風を感じることができれば、必ずネクストステージへ進めるのだと思います。

清友監査法人 矢本公認会計士事務所様

企業見学会
就労移行支援事業所
きょうばし

12月

http://www.seiyu.or.jp/

無料 声紋分析実施中!

しょうしんかい 正真会
オープンキャンパス

“自分を知る”
6秒で声から個性がわかる

今月は12月9日(木)
12月23日(木)
午前10:00~11:30

必ず、道は見つかる。
私たちと一緒になら。

ご予約はこちらから

チャレステコラム

失敗を恐れず前へ、前へ
後悔の無い 全身全霊の行動を

◆一年を振り返るこの時期、ふと「後悔先に立たず」の諺が浮かびます。「終わってしまったことを後悔やんでも遅い」という意味ですが、転じて「後悔せぬよう、事前に準備と注意をすべし」という教訓の意図もあるそうです。私なりの言葉に代える「後悔しないように最善を尽くすべし」という事でしょうか。これは自身の経験上、非常に胸に刺さる言葉です。私は「全身全霊の最善を尽くさず道半ばで終えてしまう自分」を許しません。「向上心を常に持ち、失敗を恐れずチャレンジをし続ける事が、自身を成長させる」「人生何事もやらねば分らない」「これが私を成長させる」「人生を支えている信条となります。その全身全霊の行動によって良い結果が生まれ、自身の心とハイタッチ。仮に良い結果が出なくても、それは糧になるのです。このようにして、清々しい成長の風を感じることができれば、必ずネクストステージへ進めるのだと思います。

NPO法人 チャレンジステージ 代表理事 山下 勇雄

一九九九年九月三日 第二種郵便物承認 毎月(二)三(四)五(六)七八(日)発行 定価五十円
一九九九年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一)二(三)四(五)六(七)八(日)発行

大阪市都島区 株式会社 山元紙包装社 様

https://www.yamagen-net.com/

企業見学会



「山元社長のお話」
障がい者の捉え方の転換へ



「相談・会話の大切さ」
「同真剣な表情で拝聴」



「田中様のお話」
お客様に対する傾聴力の大事さ



「箱折り体験緊張の中、丁寧に取り組み集中！」



情熱と前向きを学んだ貴重な機会でした！

障がいがあるからいい 笑顔と情熱で前向きに

桜宮校下青少年福祉委員会 長谷川新会長のご紹介により、11月18日、株式会社山元紙包装社にて見学会を開催させて頂きました。今回は本社から少し離れた倉庫兼工場にてスタート。営業本部長の田中様の説明を受け、実際の箱折りの作業体験へ移行。皆さん緊張の中、熱心かつ丁寧に取組まれていました。

その後は紙袋の箔押し印刷の工程を見学させて頂き、本社へ移動。まず、田中様から「お客さんに寄り添って情報を頂く姿勢が大事」「社内では会話の端々に楽しい風を通す事が必要」という、笑顔のコミュニケーションの大切さを伺いました。続けて、営業企画部長の山元康平様のお話へ。康平様は「お客さんが何でも相談しやすい会社づくり」を推進されておられ、誰かに喜んで頂くという仕事の重要な姿勢についてのお話を頂きました。

そして、最後に山元社長からのお話に移ります。一昨年、脳出血を患われて障がいが残ってしまったという山元社長が、次のように語られます。「今の僕はね、日々出来ることのチャレンジが広がっているんです。障がい者になって楽しかったと思える、そんな人生を送りたいと考えているんですね」——その言葉の重みに触れ、一同感動の渦が巻き起こりました。

終了後、山元社長、田中様、康平様から「とても勉強になって良い機会を頂きました」と仰って頂き、恐縮ながらも大変嬉しい気持ちでいっぱいになりました。参加者も「捉え方や日々の努力の仕方、人生が変わる事を学んだ」「障害を持つという事を前向きに捉える考え方を知った」「今日の学びを活かして明るく元気よく前へ進みたい」と、多くの学びと気づきを得た貴重な機会になりました。本当に大変意義のあるお時間を、誠に有難う御座いました。

職員感想

本日、山元社長をはじめ、田中様、康平様より「どんな時も熱い気持ちで新しい事にコツコツとチャレンジし続け、人との出会いを大切に」という姿勢を学ばせて頂きました。この学びを活かし、常に優しい気持ちを持って人の役に立てる人間になる為に、人間力を養っていききたいと思います。本日は数々の貴重なお話を頂き、心より感謝を申し上げます。

★次回開催★矢本公認会計士事務所 様 <http://www.seiyu.or.jp/>

誰かに貢献するという事

自分たちに出来る限りのことをして、それが誰かに喜んで貰えるというの、仕事において一番大事なんじゃないかなと思います。その喜びが利益や協力に繋がりますし、自分の成長にも繋がります。まずは「自分が誰かに対して何を出来るか」を考えてみると、そこから良い仕事との出会いがあるんじゃないかと思えます。

出来る、やれる

「出来る、やれる」という前向きな気持ちを持ち続けて、「コミュニケーション」を取り続けていけば、自然と道が切り拓けるという事が仕事にはあると思うんですね。ですから、出来るだけ私は人としゃべるといふ事を、積極的に仕事の中に取り入れるようにしています。相談をしたり、日常的な会話をすることが、仕事の原動力になると思います。

人間力とは何か

「人間力とは何か」という説明で、それが「人のお役に立つ力」だと聞いた時、なるほどなあと思っただけです。でも誰かに貢献できる事が生まれたら、それが素晴らしい仕事に繋がっていくと思うんです。それを実現する為には、熱い気持ちを持ってコツコツやり続けること。まずは挫けないで気持ちをしっかりと持ち、それを軸にしてひたすら継続すると、必ず結果が後からついて来るものなんです。

「きょうばし」職業指導員 古川 理恵

「加光」生活支援員 赤嶺 秀俊

「きょうばし」職業指導員 古川 理恵

「加光」生活支援員 赤嶺 秀俊

「加光」生活支援員 赤嶺 秀俊

「加光」生活支援員 赤嶺 秀俊

日常業務の中の「ちょっと良い話」

「一緒に考える」を実践
心の在り方ひとつで

「きょうばし」職業指導員
★ 平野 翔子

就職して半年ほどが経ち、最近主に厨房で勤務しています。「利用者さんのお手本にならなければ」と思い、気を張り詰めている部分があったら先輩に相談すると「平野さんらしいスタイルでやると良いよ」と、アドバイスをもらいました。そこからは、自分自身で判断が難しくなったりした時に、利用者さんに指導するのは「どうしたら良いか」と思いますが、「一緒に考えてもらうようにしました。その結果、利用者さんとの1対1の会話がぐんぐん増えて、以前よりコミュニケーションをとることが出来るようになりました。」

心の在り方ひとつで、言葉やそれ以外の情報が相手にうまく伝わる瞬間って、確かにありますね。アドバイスを素直に実践できる平野さんの感性もまた素晴らしいと思いました。

★管理者★ 寺村 肇

笑餅節

新年を鮮やかに！ 健康と幸運を願って

「加光」の屋上を見たのが今年の夏。広くて栽培できる場所もあるのに、すごく荒れ果てていたので「これはもったいない！」と思いましたが、片づけて綺麗に整えて、野菜でも植えて、みんなで楽しく太陽の光を浴びながら収穫して、そして調理して味わうことができたら最高ですね。大変な作業でしたがお蔭様で屋上菜園復活！今はカラス対策に、案山子をみんなで作ってくれたらと思います！

事務/支援員 上野 理恵子

「もったいない」から始まった復活劇

2022年 1月8日(土)
10時~15時
場所：正真会前遊歩道

色々な困難を乗り越えて、遂に寅年・2022年の幕開けです！新しく始まる年の健康と幸運を祈念して、皆でお餅をつきましょう。また、書初め&書道パフォーマンス、干支飾りの紙細工ワークショップもありますよ。ぜひ、奮ってご参加下さいませ！

孤独を防ぐ、みんなのお祖母ちゃん 命の大切さを

ボ・ドーム ダイヤモンドルーム
産前・産後母子支援事業
室長 廣瀬 みどり 氏

<http://www.dsw.or.jp/>

ボ・ドーム ダイヤモンドルーム様は、大阪市から委託を受けて、思いがけない妊娠で困った方の相談窓口、産前・産後母子支援事業を実施されておられます。

インタビューを受けて頂いた室長 廣瀬様は、妊娠された方が安心・安全に出産できるような環境を整える手厚い支援をされています。ボ・ドームでは、乳児院や母子施設、自立援助ホームなど複合的な支援が可能となっています。

廣瀬様はボ・ドームに来られる前、東成区の母子支援施設で30年ほど施設長として働かれていました。そこを退職され、産前・産後母子支援事業を立ち上げられるに至ります。そこには妊娠されたお母様たちが無事に出産し、命の大切さを感じて貰いたいという廣瀬様の想いが込められています。

現在6名の方が支援を受けておられますが、皆家族に自分の事情を伝えられず、孤独を抱えておられました。そのお母様、子供達に「人と人が繋がること」「地域の中で役割を持つこと」を感じていただくために、モノづくり事業を通じた地域コミュニティも大切にされています。

「皆のお祖母ちゃんや」と笑いながら話される廣瀬様。皆が甘やかされる時期があってこそ、次に、自立へと向かえると話されました。私たちの事業も通ずるものがありますので、続けて繋がりを持たせていただきたいと強く感じました。

「人間力とは何か」という説明で、それが「人のお役に立つ力」だと聞いた時、なるほどなあと思っただけです。でも誰かに貢献できる事が生まれたら、それが素晴らしい仕事に繋がっていくと思うんです。それを実現する為には、熱い気持ちを持ってコツコツやり続けること。まずは挫けないで気持ちをしっかりと持ち、それを軸にしてひたすら継続すると、必ず結果が後からついて来るものなんです。

「自分たちが出来る限りのことをして、それが誰かに喜んで貰えるというの、仕事において一番大事なんじゃないかなと思います。その喜びが利益や協力に繋がりますし、自分の成長にも繋がります。まずは「自分が誰かに対して何を出来るか」を考えてみると、そこから良い仕事との出会いがあるんじゃないかと思えます。」

「加光」生活訓練施設
「加光」生活支援員 荻田 拓也

荻田 拓也が行く！
インタビュー

関係機関様の「魅力びと」紹介